象の鎖を断ち切ろう！

このレポートを読んで、あなたの心が少しでも軽く、そして、新たな一歩を踏み出すことになれば、幸いです。

2008・8・18

IT 大道芸人 足立明穂

逃げない象

あまりにも有名だけど、書いておきますね。

象はものすごく賢い動物。一度、学習したことを忘れない。で、このことを、逆手に利用するのは、象の調教。

子象の時に、足にしっかりと鎖をくりつけ、その端を打ち込んだ杭に結び付けて、子象をつなぎとめます。そりゃ、当然、子象は逃げたいから、暴れます。必死で鎖から逃げようとしません。

でも、子象は、なまじ“賢い”ので、疲れてくるし、足は痛いしで、もがいても、これは、逃れられないと思うようになり、だんだん、おとなしくなります。

ここで、象使いは、その鎖を徐々に軽い鎖にして、杭ももっと細いものに変えていきます。でも、象は、もう十分に学習しているので、それを引きちぎろうとはしません。さらに、鎖ではなくて、ロープに変えても、象は逃げようとはしません。杭が打ち込まれていなくても、逃げなくなります。

そうやって、小象が大人の像になり、引きちぎるところか、ただ、足に何かが結び付けられているだけで、『逃れられない』ということを経験してしまったので、逃げようとしません。賢い象は、そんな無駄な努力はしないのですね……。

これが、象の調教の話。でも、これ、心理学や、成功哲学、経営哲学なんかでも、紹介されている話です。

あなたの足には、何本の鎖が……

小さな頃から、いろんなところで、怒られてきましたよね？（笑）

『手は、洗ったの？』

『宿題はやったか？』

『また、片付けてない！』

人生経験の少ない(?)子供だから、失敗もするし、自分の面白って思ったことしかやらないし…。だから、怒られる。

確かに、怒られないと分からないこともあるし、いろんなことを経験しながら、大きくなるのは、いいことです。学校の教師が怒ると、それを指摘しにくるモンスター・ペアレンツってのは、ちょっと方向がおかしい。グループで活動するには、リーダーが必要だし、ルールを守っていかないと成り立たないことだって、多い。だからこそ、その規律を乱すものは、怒られるのは当然。

あれ？ 話がそれちゃいましたね…(笑)。
では、話を元にもどして……。

子供のころに、いろいろと大人から何度も言われると、それは、“刷り込み”となって、大人になってからも、大きな影響をもたらします。それが、ある種、文化や伝統として受け継がれていくのですが、ただ、そうではないことも多いのですよね。

一番大きな影響を持つのは、『お金』に対する価値観です。

ある企業が、小学生に対してアンケートを取ったところ

7割の小学生が、『お金は汚いもの、お金儲けは嫌らしいものだ』

と回答したそうです。お金の話なんか、人前でするもんじゃない、お金持ちは汚らわしいってなイメージになるんですよね。しかし、その一方で、

9割の小学生が、『お金は欲しい』

と答えているのですね。つまり、お金がないと、やりたいことができないと感じている。だから、お金が欲しいのです。

これ、変な刷り込みですよ？

お金は汚いもの、お金儲けは嫌らしいものといいながら、その一方で、お金が無いと何もできないと教えているのですから。必要なのに、それを手に入れることはよくないこと…。これじ

や、大人になってから、経済やビジネスに対して誤った考え方を持ってしまう。お金持ちにはなれないし、お金がないと何もできないと思ってしまって、変な葛藤に陥ります。希望がないのですよね。

多分、それ以外にも、いろんな刷り込みが入っているはず。長男だからとか、長女だから、地方だから、都会だから、男だから、女だから、日本人だから……。

さて、そうやって、改めてあなたの足元をみてください。一体、何本の見えない“鎖”が絡まっているでしょう……。

鎖を断ち切るのは簡単！

では、そうやって刷り込まれた価値観は、どうやって変えていけばいいのでしょうか？ 足元に絡んでいる“鎖”をどうやって断ち切れればいいのでしょうか？

先の象の場合を考えて見ましょう。というか、考えるまでもないのですが、象が動けばいいだけですよね？ だって、“鎖がつながれていて動けない”と思っているだけであり、実際には、どこにもつながれていないのですから。

いや、そうは言っても、ひょっとしたら、その鎖は、本当につながっているかも……。

確かに、そうなのです。そう“思い込んでいる人”にとっては、それは、存在してるのと同じなのです。象だって、“鎖につながれている”と思い込んでいるのですから、逃げようなんて、考えもしません。

探し物をしてるときって、そんな状態ですよね？ 目の前にあっても、『あれ?? ない！ ない！ どこにもない！』って思い込んでいるから、見えていない。隣の人から、「目の前にあるじゃん！」って言われて、初めて気付く。ほんと、思い込みって、恐ろしいです。

小さい頃から、「そんなの、できっこない」、「やるだけ無駄」と言われていたことは、ひょっとしたら、簡単に達成できるかもしれない、大きな影響を与えるかもしれないのです。そういう刷り込みから、逃れるには、探し物をしてるときに他の人に言われて気付くことと同じで、『他の人の目線』が必要になるんです。

その為には、いろんな人に会って話をする、セミナーや講演に行く、あるいは、本や映画などを見るってことなんですよ。そこで、語られる話について、“よかったー！”、“面白かったー！”だけじゃなくて、“自分と何が違うんだろう？ 自分が同じ立場だったら、どうしただろう？”って考えてみると、『隣の人の目線』が分かってくるのです。

そうすると、“あれ？ ひょっとして、これって、動けるんじゃないの…”とか、“そうか！ 最初から、できないって思い込んでた！”とか、いろいろ分かってくるのです。そこまでくれば、ほら、足元の鎖が、見えなくなっていますよ。

象の鎖を断ち切ろう！

さて、ここまで読んで、少しは、『思い込み』から脱出できそうですか？ 子供のころからの『刷り込み』を解消できそうですか？ いかがでしょうか？

このレポートを書いたのは、どうも、今の世の中を見てると、将来が不安だってことが広がっていて、お金を使わない若者や、老後が不安という小学生がいるのを見て、『これって、変な刷り込みがあるからじゃないのか？』って思ったのです。

テレビや新聞などで、年金問題や、日本の借金、アメリカのサブプライム、そして、原油の値上げなど、なんか、将来が見えないようなニュースが流れていることで、不安に思ってしまう。先が分からないから、必要以上に恐れてしまうことが起きてるのじゃないか？って気になったのです。

不況だと言われても iPhone が爆発的に売れたり、日本語のブログ数が世界一になったり、世界的に有名な長寿国でもあるんですよ。もっといろんな、すごいことがあるのに、日本の将来が暗いって思ってしまう。(長寿国だから高齢化社会になって不安になるんじゃないか！って言われそうですが、そもそも、その前に、長く生きることができない国が世界にはたくさんあることを知っておいてください。)

学校教育を受けたくても受けられない人たちが、世界には、数え切れないほどいるのに、日本では、1クラスに1人は登校拒否がいる。日本では、飢死する人なんて、まずいない。飲み水の心配をしなくていいという世界でも珍しい国。

そんな日本に住んでいるのに、将来が不安になってしまう。それは、なにより、いろんな『刷り込み』によるものなですよ。そして、それが『刷り込まれている』ことに気がつかないのが、今の大人。だから、子供たちも、そんな不安感を刷り込まれてしまう。

少し踏み出せば、思ったよりも簡単だったり、意外と、うまく出来るようになったり、そんなことは、たくさんあるのです。

鎖を外して、毎日が楽しくなりますように！

2008・8・18

足立 明穂

P.S.

感想など頂けると幸いです。

↓感想送信フォーム

<http://www.formzu.net/fgen.ex?ID=P13405920>